

東アジアの自由貿易圏という大きな夢

経済・政治体制、宗教など実に多様な国々が参加する中で、ASEANが交渉のリーダーシップをとっている。企業にとって自由貿易圏拡大のメリットとは何か。

パナソニック株式会社
渉外本部 国際渉外部
主幹 上之山陽子

地政学的にも有意義な枠組み

私は「東アジア地域包括的経済連携＝“RCEP”」という枠組みに大きな夢を感じている。

その理由として、第1に地政学的に隣接する東アジアのほとんどの国が参加する枠組みであること、第2に交渉のリーダーシップをとっているのが、日本でも中国でもなくASEANであること、そして、第3に多様な価値観を許容しようとする下地があることなどが挙げられる。

まず、国境を接する隣国とは歴史的に様々な時期を過ごしてきた過去があることが多い。東アジアのそれらの国々を16カ国もつなげて経

済的な協力や連携を強化していく枠組みを構築することは、地政学的にも有意義なことだと考える(図表)。

次に、RCEP交渉は経済的優位性をもつ国が力技で推進するのではなく、ASEANという地域が交渉のリーダーシップをとっているということが非常に魅力的だ。RCEPの枠組みには、ASEAN10カ国が全て参加しており、そのASEANのFTA(自由貿易協定)パートナーがRCEPの参加国となっている。この地域で、ASEANというすでにある地域の枠組みを壊さず、連携していくということは重要である。

そして、RCEPには経済的にも、政治体制的にも、宗教的にも、実に多様な国々が参加している。これら全ての国を巻き込んで議論し、拘束的な協定を締結していこうという枠組みは他に例がない。

図表 RCEP 交渉参加国 (■)



FTA 活用時のルール統一に期待

RCEPは夢のある枠組みではあるが、多国籍間FTA交渉の結果としてビジネス界が1番メリットを実感できるのは、やはり、輸入国での支払い関税の削減である。とはいえ、RCEPに参加する16カ国はすでに東アジア地域内で様々なFTAを締結済みであり、これら既存のFTAにおける合意内容以上の貿易自由化が約